

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	事務局運営事業	会計	一般会計	事業No.	686	施策順No.	22-019
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-1-2-10-1		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	学校教育課		
施策	22 義務教育の充実			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	事務局						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		教育委員会の開催(回)	16	16	15	14	14	
	意図	適格な事務事業が展開される						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	次長課長会議の開催(回)	12	17	14	14	16	14	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	教育委員会で決定された方針に従い、教育委員会事務局等が適切な事務事業を展開した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 教育委員会事務局の運営 <参考>細々目名:事務局費 (1)教育委員会事務局の運営に必要な経費		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 教育委員会事務局の運営 (1)教育行政の基本方針の提案 (2)教育関係職員の人事の提案 (3)教育課題の把握、協議及び方針に関する原案作成と提案 (4)小・中学校の教育的な指示及び指導 2 具体的な活動内容 (1)定例会及び臨時会の開催 (2)議案の上程 (3)小・中学校との連絡調整 (4)他の自治体の教育委員会との連絡調整、情報の共有及び連携 (5)飯田市教育振興基本計画の進行管理	事務局幹部会議の開催 教育委員会への出席 定例会・臨時会への議案提案 小・中学校との連絡調整 校長会、教頭会への出席	16回 14回 44件 随時 各5回
23年度実施計画	1 教育委員会事務局の運営 (1)飯田市の教育行政の基本方針の提案 (2)教育関係職員の人事の提案 (3)教育課題の把握、協議及び方針に関する原案作成と提案 (4)小・中学校の教育的な指示及び指導 2 具体的な活動内容 (1)定例会及び臨時会の開催 (2)議案の上程 (3)小・中学校との連絡調整 (4)他の自治体の教育委員会との連絡調整、情報の共有及び連携 (5)飯田市教育振興基本計画の進行管理	事務局幹部会議の開催 教育委員会への出席 定例会・臨時会への議案提案 小・中学校との連絡調整 校長会、教頭会の開催	14回 14回 40件前後 随時 各5回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		5,831	5,179	5,955		
計(A)		5,831	5,179	5,955		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			5,179			

4 事業に対する市民や議会の意見

・教育の充実向上のために事務局側の政策立案、事業実施が求められている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	義務教育の充実によって児童・生徒の「生きる力」を育む。	施策の成果指標又はムツス指標	学校が楽しいと感じている児童・生徒の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう貢献しましたか	4年間の振り返り	・教育委員会で決定した方針に従い、様々な取組や対策を講じるにより義務教育の充実に寄与した。		
	後期に向けた課題	・一般行政と教育行政の連携による各種施策の機能的な展開を検討する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・子どもを取り巻く環境(家庭、地域、企業、行政等)が連携・協力して学校教育や社会教育の分野から多様な取組をした。		
	後期に向けた課題	・事業展開については、組織横断的な取組による提案を行う必要がある。(ふるさと教育)		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・類似事業を統合し効率的運用に努めた。(体験教育)		
	後期に向けた課題	・後期基本構想基本計画、教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画を柱とする各種施策の進行管理と再構築を行う。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・事務局として各種事業に関与しており適切と考える。		
	後期に向けた課題	・教育委員会が独自で外部評価を導入していくことを検討する段階にある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①児童生徒は「こころ豊かな人づくり」のための礎ができた。 ②教育行政による様々な施策の展開を実施した。		
	後期に向けた課題	・ふるさと意識を醸成するには、教職員、学校、家庭、地域、行政等が丸丸となって取り組むことが重要であり、そのために連携・一貫教育といった対応をする必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・学校教育、社会教育が相互に連携して義務教育の充実に取り組んだ。		
	後期に向けた課題	・学校で次代を担う多くの人材が学んでおり、施策の実現のために更なる連携を図っていく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------